

2026年7月8日

東急不動産株式会社

全国初 川崎市と民間企業など 19 社が協働する新たな枠組み

## 「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」に参加

～みどりと生物多様性の“見える化”を軸に都市モデルを構築～

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：田中 辰明、以下「東急不動産」）は、川崎市が市内に立地する民間企業など 19 社との協働により、自然と都市が共に成長する持続可能な好循環の創出に向けて 7 月 8 日に設立した新たな枠組み「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム（以下、本プラットフォーム）」へ参加します。本プラットフォームは、みどりと生物多様性の評価に関する議論を中心に行う、全国初の取り組みです。



ネイチャーポジティブの実現に向けて市内の企業など 19 社との協働による新たな枠組み「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」を設立（川崎市役所にて）

## ■ 「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」設立の背景と狙い

社会経済の安定には気候変動へのリスク軽減が必要であり、脱炭素や資源循環とあわせて、自然生態系の機能を活かした社会課題の解決につなげようと、世界的に生物多様性への関心が高まっています。ESG 投資が拡大する中、企業においても自然関連の情報開示を行う動きが進んでいます。

川崎市では、次の 100 年の方向性を示す「みどりの将来像」を掲げ、ネイチャーポジティブ（自然再興）や気候変動への対応など、地域および地球環境課題の解決を目指しており、この趣旨に賛同した東急不動産をはじめとする企業など 19 社との協働により、本プラットフォームが設立されました。

本取り組みでは、世界からも評価される好循環を牽引するため、自治体として初めて「みどりと生物多様性の見える化」にチャレンジします。さらに、ここでの議論を、市民・企業・団体・大学・金融機関など多様な主体が自ら参画する総合的な取り組みへと発展させていきます。

※ 「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」の詳細につきましては、川崎市が作成した別紙『「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」について』をご参照ください。

## ■ 東急不動産が参画する背景と今後の展開

当社は、川崎市市制 100 周年記念事業の関連イベントにおける連携に加え、川崎市が官民連携を一層強化し、「社会課題の解決」と「新しい価値の創出」に向けた取組を推進するために設立した川崎市官民連携総合窓口「Colors, Future ! Actions 推進部会」に参画するなど、これまでも川崎市とのまちづくりにおける連携を強化してまいりました。

本プラットフォームへの参画を通じて、当社がこれまで培ってきた環境先進企業としてのまちづくりの知見をもとに、川崎市や本取組に参画する企業と連携しながら、先進的なまちづくりの実現に貢献してまいります。

## ■ 長期ビジョン「GROUP VISION 2030」でめざす、環境先進の取り組み

東急不動産ホールディングスは 2021 年に長期ビジョン「GROUP VISION 2030」を発表しました。多様なグリーンの中で 2030 年にありたい姿を実現していく私たちの姿勢を表現する「WE ARE GREEN」をスローガンに、「環境経営」「DX」を全社方針として掲げています。

中核企業である東急不動産では、環境先進企業として、「脱炭素社会」「循環型社会」「生物多様性」の 3 つの環境課題の解決と、持続可能なまちづくりを通じたエリア価値の向上による社会課題の解決に、事業を通じて取り組んでいます。

東急不動産ホールディングス「GROUP VISION 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/group-vision-2030/>

東急不動産ホールディングス「中期経営計画 2030」について

<https://www.tokyu-fudosan-hd.co.jp/ir/mgtpolicy/mid-term-plan>

# 「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」について

## 1 背景

▶全国都市緑化かわさきフェア（令和6年度）  
 ・秋と春の2期にわたり、全国都市緑化かわさきフェアを開催し、協働・共創により、かわさきの多様な魅力とみどりを掛け合わせ、みどりが持つ多様な機能や効果を通じて多くのつながりを生むことができました。

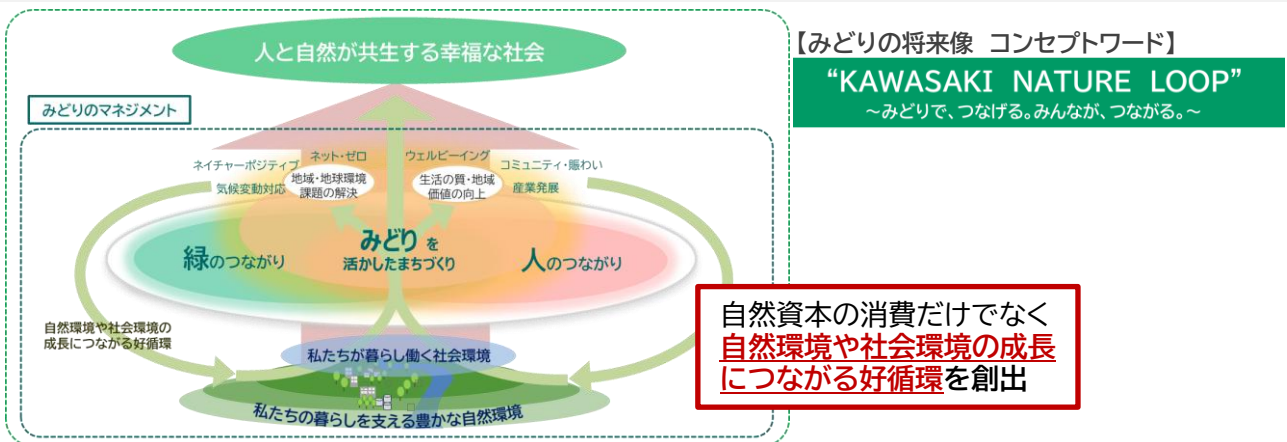


協働による花壇づくり



共創によるフェス開催

▶レガシーとしてめざす「みどりの将来像」策定（令和8年3月）  
 ・世界的な潮流を意識しながら、フェアを契機に次の100年のめざすべき方向性を示す将来像を策定しました。  
 ・みどりの将来像は、関連する個別計画の上位概念として2050年のあるべき姿を示すもので、多様な主体が自ら「緑のつながり」「人のつながり」「みどりを活かしたまちづくり」の3つの柱を成長させ、みどりの価値を最大限に引き出し、好循環により自然と都市が共に成長し続ける川崎をめざします。  
 ・「みどりの将来像」に示す3つの柱の成長と好循環を持続させるためには、市民・企業・団体・大学・金融機関など、市に関わる多様な主体が自主的に参画し、主体的に取り組むことが必要であり、市全域において総合的に取組を推進し、発展させていくための仕組み（みどりのマネジメント）づくりを進めるとともに、様々な機会を捉えた情報発信や普及啓発に向けて、緑のつながりにおいては、多様な主体の連携により、現況調査やモニタリングにより緑の量や動植物調査による基礎データを収集し、データの見える化を行うなど、将来像の実現に向けた取組を推進していくこととしています。



自然と都市が共に成長する持続可能な好循環 イメージ図  
 「川崎市みどりの将来像」（令和8年3月策定。URL：<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000181078.html>）

## 2 設置目的・進め方

### ▶設置目的

ESG投資が世界的に進む中で、企業においても、自然関連の情報開示を行う動きが進んでいる状況を踏まえ、市内に立地する世界的な企業との協働により、みどりと生物多様性の評価に関する議論を中心に行う新たな枠組みとして「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」を設置し、世界からも評価される好循環を生み出す取組をけん引するため、次の議論を開始します。

- ①みどりと生物多様性が見える化
- ②モニタリング手法の実践
- ③指標の検討
- ④その他、緑のつながりやまとまりに関する意見交換

## ▶進め方

行政だけでなく、川崎市というコミュニティに属する多様な主体と一体となって、自然とともに歩み、ネイチャーポジティブ（自然再興）に貢献するため、次のように取組を推進していく。

- ①まず、自然と都市が共に成長する持続可能な好循環の創出に向けたキックオフとして、**市内に立地する世界的な企業を中心とした企業の皆様と今後の取組をけん引するため、新たな枠組みでの議論を開始します。**
- ②**ネイチャーポジティブの推進に向けて、世界的にも評価を受けられるよう、企業との協働により、みどりや生物多様性の見える化やモニタリングなどの取組を進めます。**
- ③この議論を、市民・企業・団体・大学・金融機関など、多様な主体が自ら参画する総合的な取組の発展や市内への意識の醸成、機会を捉えた国内外への発信につなげていきます。

## ▶市が果たすべき役割

・脱炭素だけでなく生物多様性も重視されるグローバルな動きを、**ローカルな視点で川崎市に根付かせていくためには、市の役割がこれまで以上に重要となります。**

・川崎市は、**規制と緩和による主導的な緑化の誘導**や、つながりのきっかけづくり、**地域特性を踏まえたみどりの質の創出**などに取り組む必要があります。

## ▶期待される企業の役割

・企業では、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）やESG投資等の世界的な潮流を踏まえた自然関連の情報開示を行う動きが進んできています。

・今後、これまでの緑化や保全活動などに加え、生物多様性に配慮した緑化や地域還元、様々な技術を活かしたみどりの機能・効果の発揮等に取り組む、**世界的にも評価される好循環を生み出すことが期待されます。**

地球環境に関する世界的な動向

気候変動	自然資本全体
TCFD (C=climate)	TNFD (N=nature)
CO2→温暖化 (ネット・ゼロ)	生物多様性、 土地・水・大気 など
グローバルな 課題	<b>ローカルな 課題</b>

※自然環境や生物多様性については**地域の特性と大きな関わりがある**

## 3 構成（敬称略）

### ■学識者

- ・**森 章**（東京大学 先端科学技術研究センター教授）
- ・**内田 圭**（東京都市大学 環境学部准教授）

### ■企業（50音順）※カッコ内は所在地

#### 【大規模企業】

旭化成株式会社（東京都）、味の素株式会社（東京都）、ENEOS株式会社（東京都）、花王株式会社（東京都）、キヤノン株式会社（東京都）、JFEスチール株式会社（東京都）、株式会社JERA（東京都）、東京ガス株式会社（東京都）、東京電力パワーグリッド株式会社（東京都）、株式会社東芝（川崎市）、日本ゼオン株式会社（東京都）、日本電気株式会社（東京都）、富士通株式会社（川崎市）、株式会社レゾナック（東京都）

#### 【不動産企業】

東急不動産株式会社（東京都）、日鉄興和不動産株式会社（東京都）、三井不動産株式会社（東京都）

#### 【金融】

川崎信用金庫（川崎市）、横浜銀行（横浜市）

### ■オブザーバー（経済、金融）

- ・一般社団法人いきもの共生事業推進協議会（東京都）

### ■アドバイザー

- ・**原口 真**（MS&AD インシアランスグループホールディングス株式会社 フィロ）
- ・**堀江 隆一**（CSRデザイ環境投資顧問株式会社 代表取締役社長）

## 4 議論の方向性

### ①みどりと生物多様性の見える化

緑化の取組や緑地での活動などの効果を、最新の衛星リモートセンシング技術や地理空間情報解析技術を活用し、本市の特徴的なランドスケープにあわせて数値化・図示化等により見える化した「川崎モデル」の構築をめざします。また、現地調査の結果を専門的な知見から反映し、市内企業の生物多様性に資する取組が世界的な評価にも活用できるよう、その精度を高めていき、都市の魅力向上や地域価値の向上、ネイチャーポジティブ（自然再興）に向けた企業の持続的な活動を支援に役立てていきます。

### ②モニタリング手法の実践

市内で動植物の生息・生育モニタリングを継続して行うことで、緑の量や動植物調査などによる基礎データを収集するとともに、地域や企業と連携した取組を通じて国内外に向けて継続してアピールすることができるよう、多様な主体との協働調査など、都市部のモデルとなり得る持続的なモニタリング手法を導き出します。



### <見える化のさらなる挑戦>

指標の検討に向けて、「川崎モデル」のさらなる活用により、生物多様性に資する緑化を優先させるエリアの抽出や、ウェルビーイング（心身の充実）やレジリエンス（災害等に対する強靱性の向上）等の見える化の検討による試行実施を行うなど、都市と自然が共に成長する好循環を生み出すモデルの確立にチャレンジしていきます。

### ③指標の検討

2050年のみどりの将来像を見据え、2030年のSDGsや2050年のネット・ゼロ（炭素中立）といった国際目標の中間年である2040年を目標年次として、生物多様性に関する国際的な指標などの動向を踏まえながら、みどりと生物多様性の見える化や緑化誘導手法等について意見交換を行い、生物多様性に資するみどりのつながりやまとまりなど、みどりの将来像の実現に向けた取組の進捗状況を総合的に検証するときの1つの指標として、本市にふさわしいものとなるよう検討を進めます。

<みどりの将来像に示す、今後、指標を設定する際の視点>

- ・ 緑のつながりを示す指標
- ・ 緑のまとまりを示す指標
- ・ 拠点地域におけるウェルビーイング（心身の充実）を示す指標
- ・ みんなで取り組んでいることを示す指標